

JHA連絡会（2025年2月11日開催）と 地域協会の取り組みに関するアンケート結果

2025.5



公益社団法人日本ホッケー協会
戦略統括本部 経営企画部

- 調査名 : JHA連絡会と地域協会の取り組みに関するアンケート
- 調査目的 : 1. 次回のJHA連絡会開催に向けたフィードバックを頂戴するため
: 2. 会議中にご要望いただいた各地域協会間の取り組みや課題の情報共有を行うため
- 調査内容 : 1. JHA連絡会の感想
: 2. 地域協会での取り組みや課題について
- 設問数 : 全13問
- 回答者数 : 32名
- 調査期間 : 2025年2月14日（金）～2月28日（金）
- 実施主体 : 日本ホッケー協会 戦略統括本部 経営企画部（担当：中村、西田、田中）

アンケートにより、次回のJHA連絡会に向けて目指すべきあり方が整理され、各地域協会間にて共有すべき課題が見えてきた。本結果を元にJHAとして活動の方向性を改めて検討していきたい

JHA連絡会について

- 初回となる JHA連絡会 の開催についてはご好評いただいた。
- 特に2024年度の活動報告として、財務状況や代表チームの活動方針に関して理解を深めていただけた。
- 一方、活動報告に要した時間が120分超と長かったことや、次回に向けてオンライン参加の要望も多くあり、会議体の運営に改善点があることを確認できた。
- また、初回であった点を踏まえつつも、日本協会から地域協会への一方的な説明が続いたという指摘もあり、地方協会を主体とした会議体の設計や意見集約、意見交換しやすい場作りが、今後に向けた課題である。

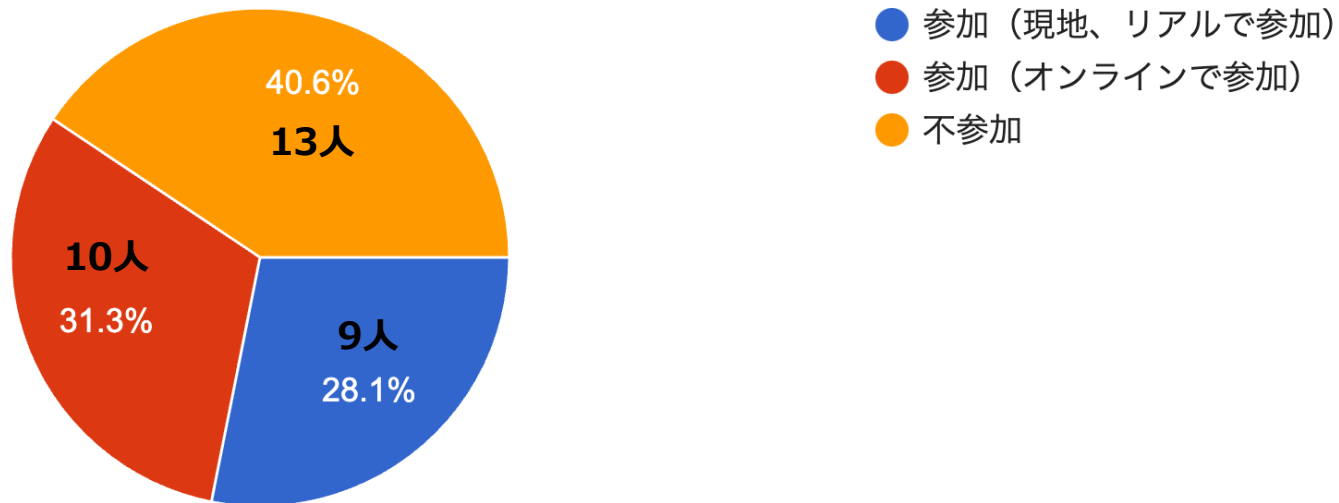
地域協会での取り組みや課題について

- 地域ごとに規模感の違いはあれど、限られた人員、予算の中で、地域の実態に即したホッケーの活性に取り組んでいただいていることが再確認できた。
- 「設備」、「少子化/人口減少」、「競技継続性の担保」、「財政/運転資金」、「人的リソース」の主に、5つの課題があることが再確認できた。

回答者における 連絡会参加と不参加の割合

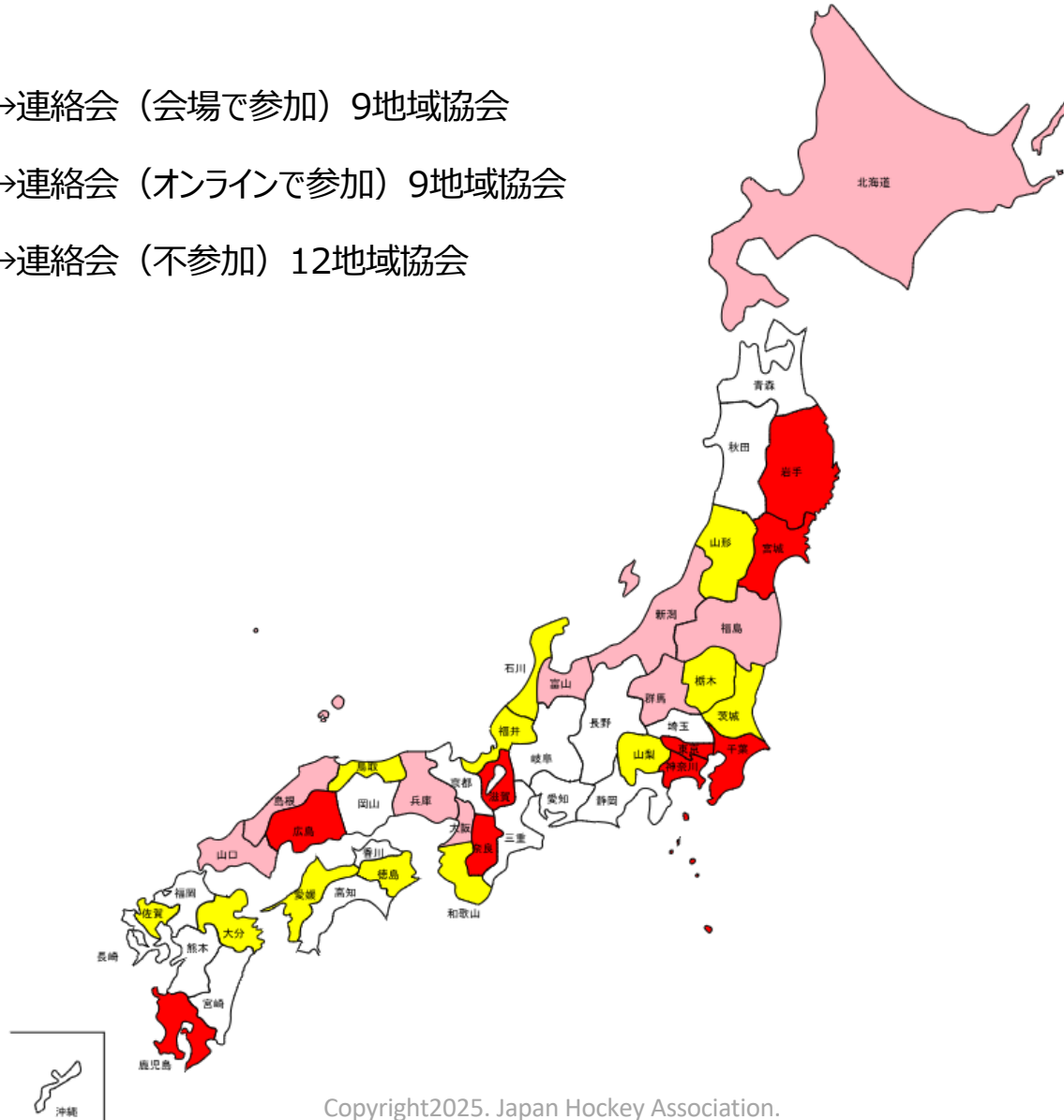
連絡会への参加者は、リアルとオンライン参加の割合が大体半数づつ

Q1. あなたは、2025/2/11（火祝）に開催された、JHA連絡会に参加されましたか？ [総回答数：32]



アンケート回答のあった地域協会

- 連絡会（会場で参加）9地域協会
- 連絡会（オンラインで参加）9地域協会
- 連絡会（不参加）12地域協会

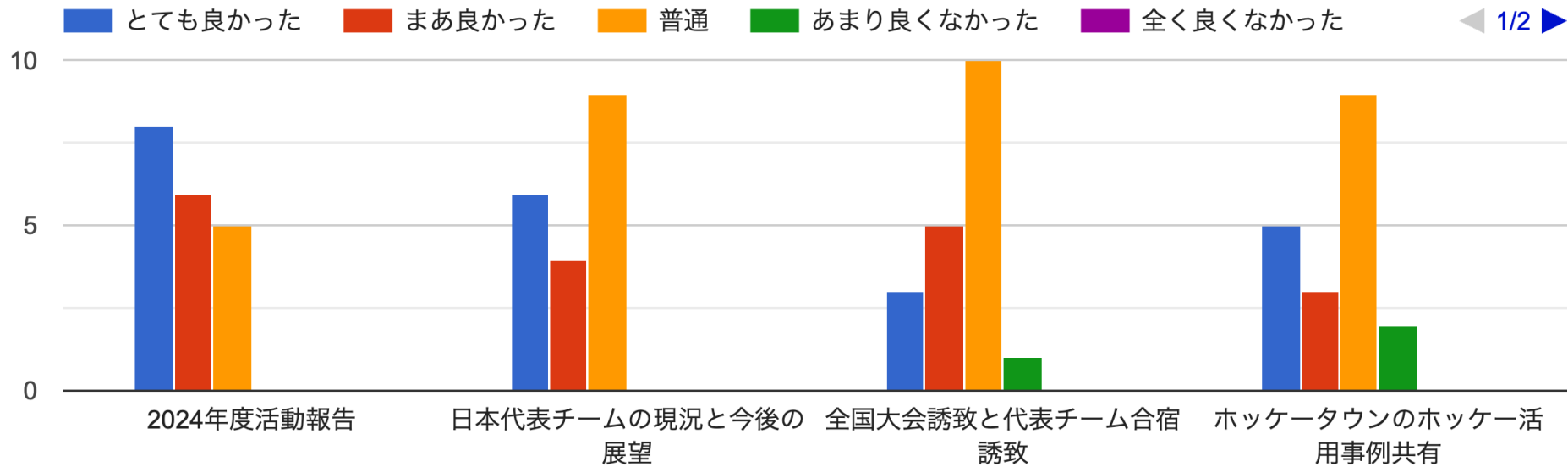




JHA連絡会 参加者の回答 n=19

全体的にポジティブな評価が多かったが、特に「2024年度活動報告」の評価が高かった

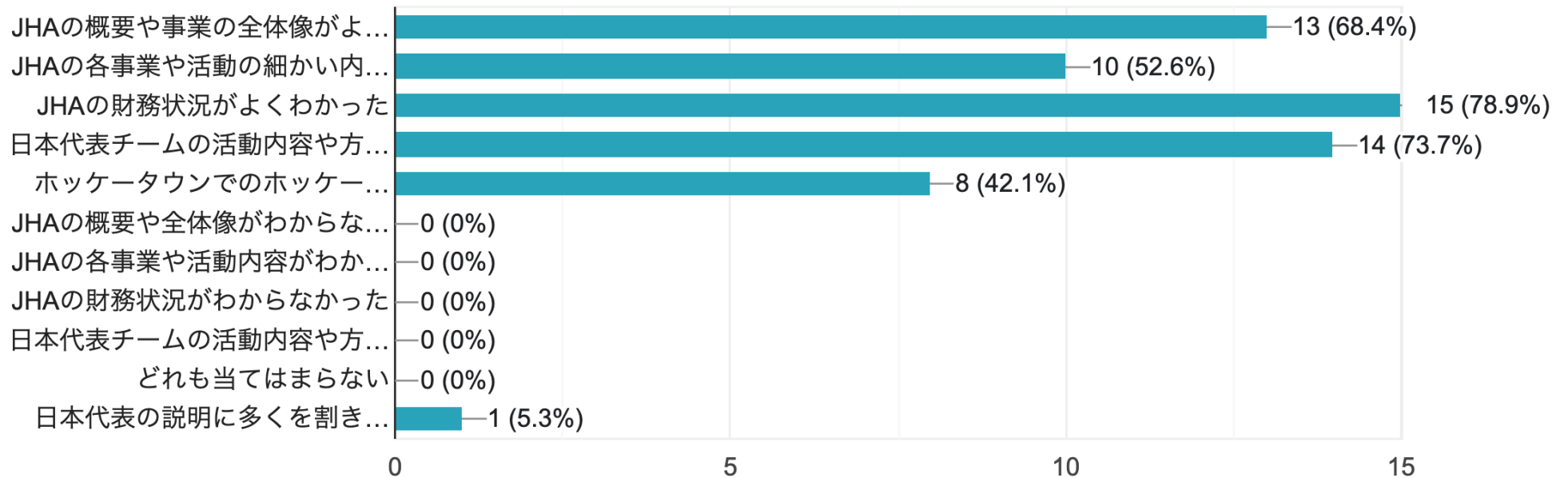
Q2. JHA連絡会の各セッションについて、どのように思われましたか。各項目ごとにお知らせください。



全体的にポジティブな選択肢へ回答が集中した。

特に「財務状況」や「代表チームの活動方針」がよくわかったという意見多数

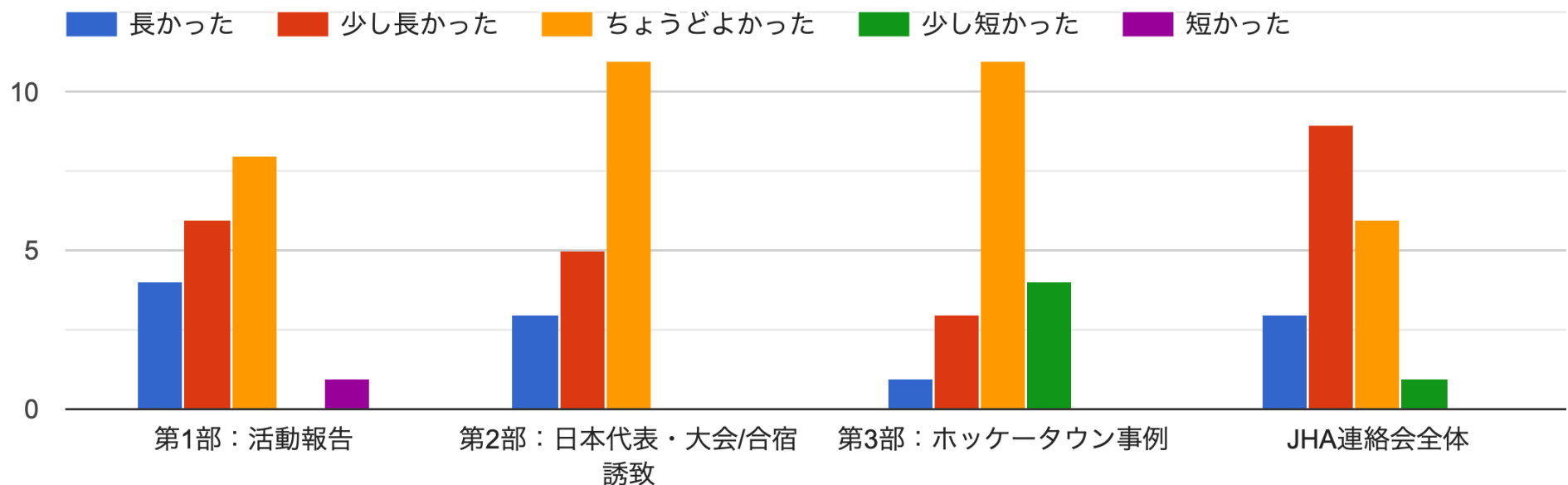
Q3. JHA連絡会の感想について、あてはまるものを全てお知らせください。（複数回答）



各部毎では「ちょうどよかった」という意見が多いものの、全体では「少し長かった」という意見が多かった。第1部の時間が全体の「少し長い」という印象につながったと推察

Q4. JHA連絡会の会議時間について、あてはまるものを1つだけお知らせください。

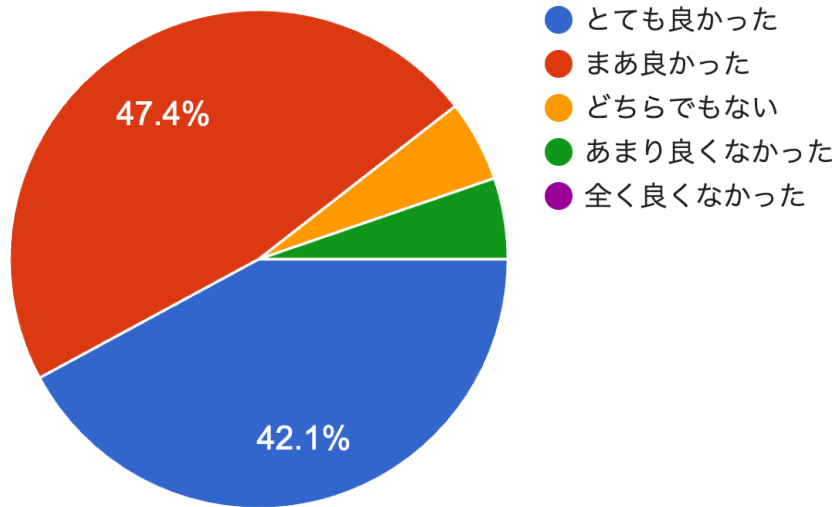
参考) 第1部：2024年度活動報告120分、休憩30分、第2部：日本代表チームの報告・大会/合宿誘致45分、第3部：ホッケータウン事例30分



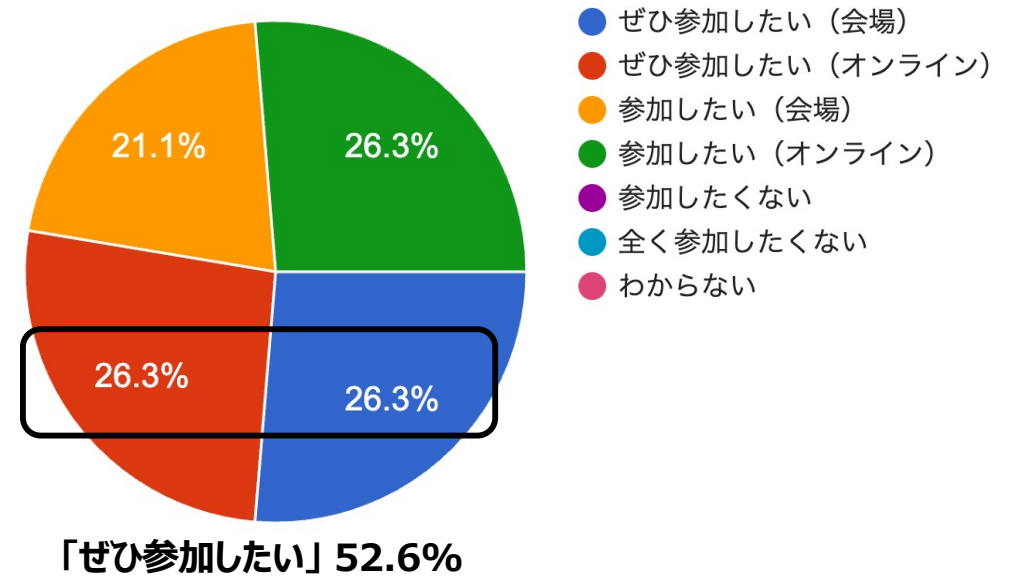
連絡会への満足度、次回参加意向

「とても良かった」と「まあ良かった」の合計が89.5%と、とても高い評価となった。
 回答者全員がポジティブな参加意向を示しており、継続開催への期待は大きい

Q5. 全体を通して、今回のJHA連絡会について、
 あてはまるものを1つお知らせください。



Q6. あなたは次回もこのJHA連絡会に参加してみたいと思いますか。



連絡会に対するご意見やご感想1

全体的にポジティブなご意見が多く、初の試みとして連絡会を開催し、直接的な対話の場を持ったことで、日本協会としての前向きな姿勢が伝わったといえる

Q7. Q5、Q6の理由についてや、今回のJHA連絡会について、ご感想やご意見等がありましたら、自由にお知らせください。
(自由回答) [総回答数:14]

- 私が知る限り、今回のような連絡会は**初の試みですごく良かった**と感じています。ただ総会ではないので全ての分野でその活動内容を説明の必要はないと思う。基本的に財政状況と代表チームの動向は毎回説明し、その他は責任者がまとめた書類を配布すればどうかなと思う。もちろん地方協会が気になる案件が発生している時はその点を説明する必要があると思う。
- **開かれた協会に変わった。**
- JHAの取組の共有だけでなく、各事務局の課題や事例の共有をしてほしい。日本代表の活動よりも各都道府県事務局の情報共有に時間を割いてほしい。
- 競技PR活動について大阪での活動事例は参考になった。
- **連絡会としては良かった**と思います。来年度も参加する予定ですが日程により会場かオンラインかわからないのでオンライン参加としています。
- これまで参集となると定時総会のみで、定時総会となると登録チーム数で人数が決定され各都道府県協会会長や理事長など役職のある方の参集であり、また代理出欠も認められないため業務に従事している事務局が内容が不明な点があったが、このような機会を設定いただき、**内容の理解や協会の方々とは直接お話しすることができたのは貴重な機会であった。**
- JHAの活動を知っておくことは大切なことだと思います。ただ、遠方になり交通費の負担も考えるとオンラインでよい。
- **取組としては是非とも継続されたい。**資料はできれば事前配付して、会議での説明を短縮し実質的な意見交換を充実されたい。強化方針について、トップチームのことは詳しく説明があったが、U12など全体的に一貫した方針やビジョン、プログラムがあるのか無いのか、わからない説明と感じた。財務は、改善の方向にあると理解したが、総会の資料とまでいかなくとも中間まとめの具体が提示できないものかと感じた。これまで以上に各都道府県とのコミュニケーションや連携を大切にされたい。
- 地方協会と情報の共有を行おうとする**JHAの姿勢がよく伝わった。**品川区の取組みの紹介は他の協会にも誇れる内容だったと思う。品川区にプレゼン頂いたことに感謝する。THAの連絡会でも紹介させてもらった。「賛否両論」弁当の選定はウイットも効いていて良かった。
- 中央と地方団体の情報共有の場としては、参加をしたいと考えますが、中央側からの一方通行の報告であればオンラインや資料配布で十分です。中央の報告に対して意見を聞くような形式であれば対面の必要はないです。地方側の問題点をホッケー界全体で共有し、サポートや対応策に手を差し伸べていただくことを望みます。
- 定期総会の報告・提案は正会員が聞き、地元以降ろすことになり、現場（チーム）レベルに下りてくる情報が少ないが、このように事務局（実行部隊）レベルがJHAの報告や提案を受けることはチームに対しても直接届きやすい機会だと思う。
- 初回だったため全ての内容を盛り込んだ物になっていたと思いますが、次回以降は総会の内容と分ける、テーマを絞るなどにより、より魅力ある会にして頂ければと思います。
- これまでは、総会等の内容が紙ベースでしかわかりませんでした。が、**詳細なことまで一定理解できましたので、大変良かった**と思っています。**できるだけ情報をオープンにされようとする姿勢が十分に伝わってきました。**関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
- **協会の前向きな姿に満足したから**

連絡会に対するご意見やご感想2

一方、運営面に関するご指摘が散見され、特に、地域協会を主語とした会議体の運営や、意見の吸い上げや意見交換しやすい場作りが、今後に向けた課題である

Q7. Q5、Q6の理由についてや、今回のJHA連絡会について、ご感想やご意見等がありましたら、自由にお知らせください。
(自由回答) [総回答数:14]

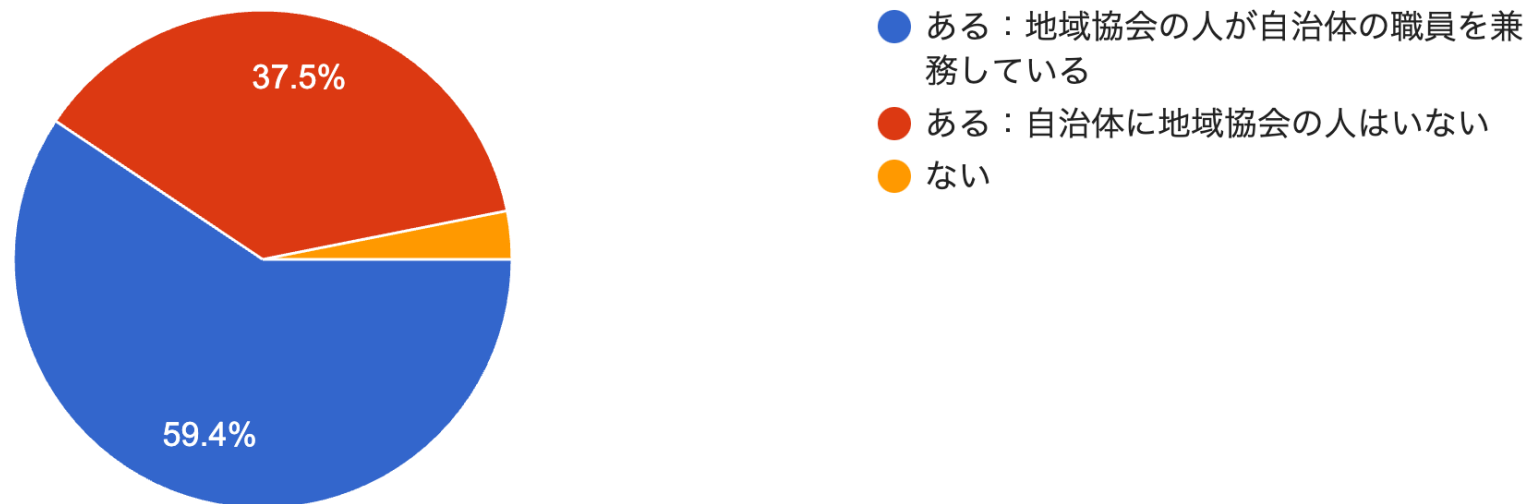
- 私が知る限り、今回のような連絡会は初の試みですごく良かったと感じています。ただ総会ではないので全ての分野でその活動内容を説明の必要はないと思う。基本的に財政状況と代表チームの動向は毎回説明し、その他は責任者がまとめた書類を配布すればいいかなと思う。もちろん地方協会が気になる案件が発生している時はその点を説明する必要があると思う。
- 開かれた協会に変わった。
- JHAの取組の共有だけでなく、各事務局の課題や事例の共有をしてほしい。日本代表の活動よりも各都道府県事務局の情報共有に時間を割いてほしい。
- 競技PR活動について大阪での活動事例は参考になった。
- 連絡会としては良かったと思います。来年度も参加する予定ですが日程により会場かオンラインかわからないのでオンライン参加としています。
- これまで参集となると定時総会のみで、定時総会となると登録チーム数で人数が決定され各都道府県協会会長や理事長など役職のある方の参集であり、また代理出欠も認められないため業務を従事している事務局が内容が不明な点があったが、このような機会を設定いただき、内容の理解や協会の方々と直接お話しできたのは貴重な機会であった。
- JHAの活動を知っておくことは大切なことだと思います。ただ、遠方になり交通費の負担も考えるとオンラインでよい。
- 取組としては是非とも継続されたい。資料はできれば事前配付して、会議での説明を短縮し実質的な意見交換を充実されたい。強化方針について、トップチームのことは詳しく説明があったが、U12など全体的に一貫した方針やビジョン、プログラムがあるのか無いのか、わからない説明と感じた。財務は、改善の方向にあると理解したが、総会の資料とまでいかなくとも中間まとめの具体が提示できないものかと感じた。これまで以上に各都道府県とのコミュニケーションや連携を大切にされたい。
- 地方協会と情報の共有を行おうとするJHAの姿勢がよく伝わった。品川区の取組みの紹介は他の協会にも誇れる内容だったと思う。品川区にプレゼン頂いたことに感謝する。THAの連絡会でも紹介させてもらった。「賛否両論」弁当の選定はウイットも効いていて良かった。
- 中央と地方団体の情報共有の場としては、参加をしたいと考えますが、中央側からの一方通行の報告であればオンラインや資料配布で十分です。中央の報告に対して意見を聞くような形式であれば対面の必要はないです。地方側の問題点をホッケー界全体で共有し、サポートや対応策に手を差し伸べていただくことを望みます。
- 定期総会の報告・提案は正会員が聞き、地元以降ろすことになり、現場（チーム）レベルに下りてくる情報が少ないが、このように事務局（実行部隊）レベルがJHAの報告や提案を受けることはチームに対しても直接届きやすい機会だと思う。
- 初回だったため全ての内容を盛り込んだ物になっていたと思いますが、次回以降は総会の内容と分ける、テーマを絞るなどにより、より魅力ある会にして頂ければと思います。
- これまでは、総会等の内容が紙ベースでしかわかりませんでした。詳細なことまで一定理解できましたので、大変良かったと思っています。できるだけ情報をオープンにされようとする姿勢が十分に伝わってきました。関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
- 協会の前向きな姿に満足したから

地域協会における活動に関するアンケート n=32



ほぼ全ての地域で、地域協会と自治体は連携しており 自治体職員と地域協会の兼務者がいる協会は、約6割と多数

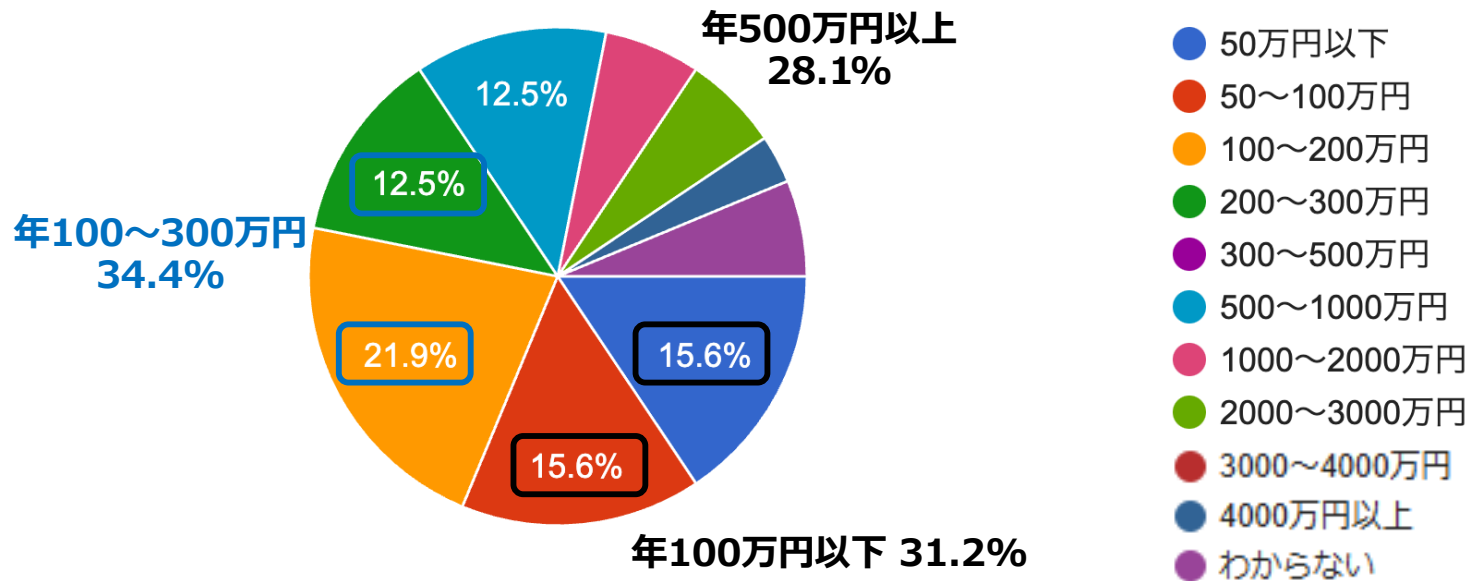
Q8. あなたの地域協会は、自治体（市町村）とつながり（スポーツ推進課など）があり、定期的に情報交換や共同で事業をおこなっていますか？



地域協会における年間収支規模

年間300万円以下の収支規模で運営される地域協会が2/3を占めているが一方で、年1,000万円以上の地域協会も16%存在し、多様な構成となっている

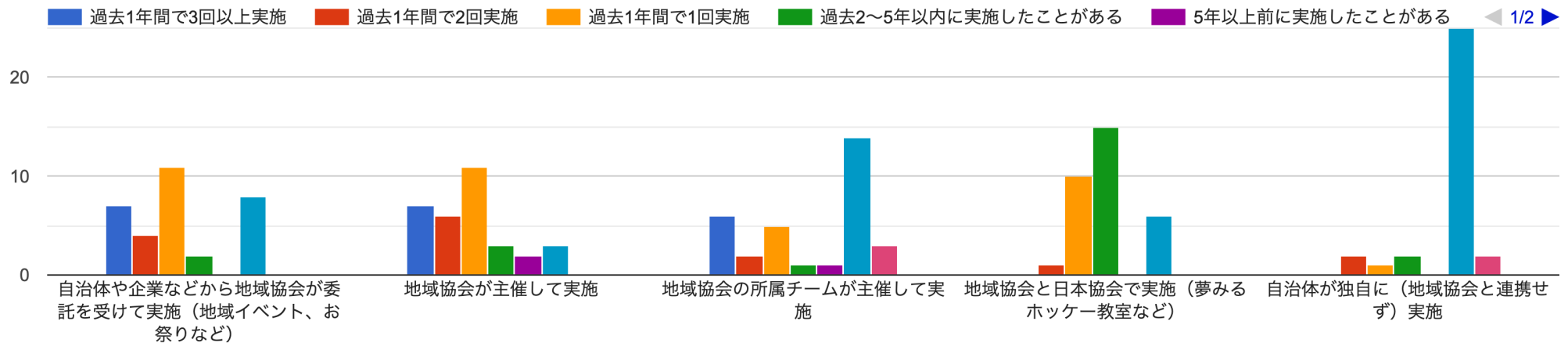
Q9. あなたの地域協会の1年間の収支規模について、あてはまるものを1つお知らせください。



地域における普及活動の実態（実施の形態）

直近1年間の初心者向けの普及活動実績としては、地域協会が主催、もしくは、地域協会が委託を受けて実施されているケースが多い

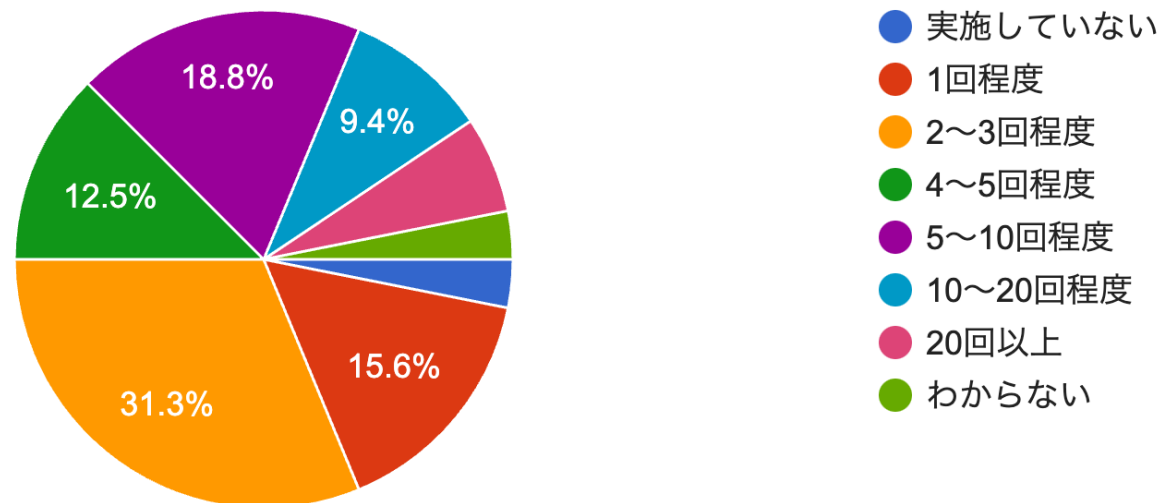
Q10. あなたの地域（都道府県）でおこなわれている、ホッケーの普及活動（未経験者向けのホッケー体験やホッケー教室など）について、形態と頻度についてそれぞれ該当するものをお知らせください。



地域における普及活動の実態（頻度）

年2～3回の開催が最多だが、年10回以上開催している地域と年1回以下の地域がそれぞれ約2割あり、開催頻度は地域によってばらつきが大きい

Q11. あなたの地域（都道府県）でおこなわれている、ホッケーの普及活動（ホッケー未経験者向けのもの）は、1年間で大体どれくらいの回数ありますか。



地域協会における地域ホッケーの発展につながる取り組み（1/2）

各地域協会ともに世代を問わず体験機会の創出に取り組んでいる。

- 幼保、小学校を中心としたホッケー教室/競技体験会/出前授業の開催
- 多世代に向けたホッケー体験機会の創出
- 商業施設や地域イベントにおけるホッケー体験会の開催
- リーフレット/チラシなどの配布

Q12. あなたの地域協会がおこなっている、ホッケーの普及活動や競技者の確保、競技継続を促す施策など、地域ホッケーの発展につながる取組みについて、お知らせください。[総回答数：25]

- これまでは6人制大会を開催し競技継続を促す施策は行なっていたが、普及に関しては全く手付かず状況でした。しかし、一昨年からスポーツ振興課の協力を得てストリートホッケー(現在はアーバンホッケーに改名)をやショッピングモール内などで実施。これにより一番心配な観客動員に苦労しなくても人が集まる場所でミニホッケーを楽しんでもらえる事ができています。そして会場で少年団のチラシを配り、興味を示す子供も数人誕生しています。また同じくスポーツ振興課の協力で小学校の体育授業にアーバンホッケーを取り入れて指導者派遣をすることも始めています。このアーバンホッケーを全国展開させることを推し進めたいと考えています。
- 県民スポーツ大会の「スポーツ体験等のイベント事業」で毎年ホッケー教室を開催。
- 区役所からの委託により希望する区内小学校で授業の中でホッケー教室を開催。地域イベントにホッケー協会体験ブースを設置。県スポーツ協会主催のスポーツ体験イベントにホッケー協会体験ブースを設置。初心者の体験機会創出に積極的に取り組んでいるが、スポーツ少年団への加入といった実績には思うようにつながっていない。一方で、中学生の中には小学校での体験教室できっかけにホッケー部への加入といった声が聞かれている。
- ホッケー教室や競技体験会を実施
- 行政の全面支援でホッケー教室を開催 当協会から講師(指導者)を派遣する形 この教室に参加した子(小学生が大半)の中から少年団に入部する子が多い。また国スポ選手強化育成事業の選手発掘事業として当協会がホッケー体験教室を企画し実施 同様に参加者を少年団に勧誘。未来アスリート育成の為 競技(ホッケー含む)に特化した強化育成事業(中学生対象)を開催 これも競技継続につながっている一つの要因と考えられる。オ
- オリンピアンを招聘しホッケー教室を実施
- 出前授業 県と協賛し国スポの事業として実施していた。
- 未経験者を対象としたホッケー体験会の定期的な実施

地域協会における地域ホッケーの発展につながる取り組み (2/2)

- 協会から地域の小学校へ授業でのホッケーを紹介している。
- 大会事業、強化事業、普及事業の各事業部が連携し、ジュニアからシニアまでホッケーを行える機会を提供している。
- 未普及地域での体験会開催、総合型地域スポーツクラブ等との連携による体験機会創出、多世代地域クラブによる「引退・ブランク」の節目軽減、多世代活動による競技機会の充実
- 地域の方と一緒にホッケー大会を実施しています。
- チャレンジホッケーというものを9月～1月に20回程度実施している。(小中学生対象) ホッケー部のある高校への進学が多く、競技者の確保に繋がっている。
- 幼保、小学校等への定期的な巡回ホッケー教室。放課後教室との連携によるホッケー教室。行政や民間団体が主催するイベントでのホッケー教室。そこからホッケークラブへの誘導。
- 地域イベントにてブース出展、行政等の支援を受けて体験教室実施、地域内小大会の開催
- フィールドホッケーを小学生低学年向けにアピールしてもスティックを振り回して危険だというイメージが先行してしまうため、ユニホックのスティック、ボールを使用し、独自にルールを作成し普及している。子どもから大人まで同じルールの下で行うため人気が高い。勝敗がつくゴールスポーツとして小学校から普及もしている。
- 協会と表裏一体のNPO法人が主体となって小中学生のホッケー教室を開催している。
- 小学校における出前授業、各種イベントにおけるホッケー体験コーナー、など
- チャレンジスポーツ教室の実施(年1～2回実施 小学校3年～6年生を対象) 県スポーツ協会より補助金あり。
各小学校にリーフレットを配布している。
- 1. 過去(2015年～)に大学学生とホッケーをやるう」と小中学生を対象に行った。当初は大学敷地内のクレートコートではあったが、50名前後参加していましたが、親御さんの車両送迎で大学の出入りが厳しくなり練習場所を別の地域の人工芝へ移動したが、参加者の移動が大変となり、参加者減。その後2020年コロナにより中断した。
2. 2024年からは、冬季間積雪により屋外で活動ができないため、「フロアーボール」(体育館で実施)を通じて、遊び感覚でホッケーに類似した競技を普及活動し始めたところで、数年経過観察の予定です。
- この4年間、市内9小学校の体育授業でユニホックを教材に、毎年、約3ヶ月間で延べ2000人以上の指導実績を上げている。人気があり、好評である。
- 体験会チラシの全校配布。体験会参加者へのスティックプレゼント(2000円～3000円)。トップリーグチームによるセミナー。地域の慈善団体との連携。
- これまでホッケー競技の中心地であった地域が少子化等の影響で競技者を確保できないことから、県の中心地である地域をターゲットにして普及活動を実施していく計画である。

地域協会の運営上の課題 (1/2)

運営上の課題に関しては、大きく以下の5つに関するものが多くみられる。

- 1. 施設 (青) : ホッケー場自体が近隣にない、施設の新設/更新に自治体のハードル
- 2. 選手の減少 (橙) : 選手が集まらない、運動をしない子供の増加
- 3. 競技継続性の担保 (黄) : 継続的にホッケーができる受け皿の不足
- 4. 財政/資金 (緑) : 運営資金における補助金依存、自主財源/スポンサーの確保
- 5. 人的リソース (紫) : 協会運営/指導者 (有資格者/教員) の不足、ボランティアの負担増

Q13. あなたの地域協会の運営上の課題や、地域のホッケーの発展を妨げている問題点などがあれば、お知らせください。
[総回答数 : 26]

- 何と言っても地元で**公共設備としてのホッケー場がない**事が一番発展を妨げていると思います。
- 毎年ホッケー教室を開催し普及を図っているが、**少子化が激しく選手が集まらなくなっている**。今後は近隣自治体にも募集を広げてみるが、交通面などにより厳しいと、考えている。当県のみならず、他県の拠点となっている自治体も過疎地域が多く、**近い将来チーム編成ができず、大会に参加が出来なくなる県が増えてくると思われる**。
- 財務に関してはスポーツ協会からの**補助金に依存度が高く、自主財源の確保が課題**。スポンサー獲得に取り組みたいが、ノウハウや人員が不足している。競技力強化に関しては県内での一貫指導体制の確立が課題。コーチ資格の取得を促したいが、コーチ3は金銭的・時間的な負担が重く、思うように進んでいない。ホッケー関係の中学・高校の顧問がいない場合、**専門的な指導が平日の夜や週末など機会に限られる**。また、日本代表などによる講習会を実施したいが、実施にはスポーツ協会の補助金活用が必要となる。しかし、**補助金の使用には所得税の納付など事務負担が重く、実施が困難な状況**。普及に関しては初心者向けの体験会は実施しているが、スポーツ少年団といった実績は思うように上がっていない。また、**高校進学時に学力などからホッケーの継続を断念せざるを得ないことが課題**。社会人チームに加入し、社会人リーグなどに参加しているが、同世代との試合は国スポのみに限られる。さらに、**高校・大学・社会人チーム引退後に競技から離れる者が多く、競技力の向上以外を目的としたホッケーを楽しむ環境整備が課題**。競技役員に関しては、**有資格者 (特にアンパイア) の高齢化が課題**。C・D級資格取得を促したいが、取得希望者が限られている。大会運営に関しては中学の部活動の地域移行の推進により、これまで学校主体から協会主体での運営にシフトしてきているが、協会関係者は仕事や指導との兼ね合いから負担が重くなっている。**事務局運営に関しては近年事務局の組織化に取り組んでいるが、指導者・事務局・選手・大会運営など関係者の負担が重い状況**。
- ①**人口減少**、②**社会人(特に大学卒業後)の就職先**
- **財政的に余裕がない事、関わってくれる人材が不足していること**
- **運営資金の調達** 関係者からの協賛金で運営してきたが年々少なくなってきた。新たな資金調達を模索していく中でローカル大会を検討中。
- 現場で指導に関わっていただいている方は多数いるが、**事務作業を手伝ってくれる方が少ない**。また報酬などをしっかり払える財源がない。**教員任せになっている部分が多く、持続可能な協会運営になっていない**。

地域協会の運営上の課題 (2/2)

- U/Iターンが少ないため社会人選手が減少。少子高齢化並びにスポーツ人口減少に伴い競技人口の減少。予算確保が困難であり、事業も慎重に進めなければいけない。ホッケーがマンネリ化していることもあり、魅力を発信することが重要。
- 少子化なのに多数のクラブが存在している。
- 競技場を確保（新設）したいが、反対者もおお政治的に利用されている。「ホッケー場建設反対！」
- 指導者が少ないことや、人工芝がロングパイルで後任となっていない。
- 指導者、サポートスタッフの確保。
- 国スポについて、ふるさと選手制度を活用できないこと。（当該選手所属大学の意向によりふるさとでの出場が難しい。国スポは、地域における育成成果の確かめ合いとしたい。地域で育った選手が年に1度でもふるさとへ集結し、地域全体が応援する都道府県代表チームを編成したい。年度登録上は、所属チームに、当該選手の管理権はあるものの、国スポに限っては「国スポウィーク」のような設定でもって当該選手の管理権をふるさとに優先性を持てるようなしくみが整えば、強豪大学が所在しない地域にあっても国スポの価値が表現できると考えます。）
- 人材不足につきと思います。
- 「ひと」=運営スタッフ／競技役員／指導者といった人材の不足、「もの」=競技する場所（公営施設の整備）がない、「かね」=普及・育成／人件費といった、経費不足、「情報」=中央がもっている各種ノウハウや育成プログラムといった情報共有とスピーディーな情報発信を希望する。ボランティアとして協会運営している中でどこまで地方の自助努力で行わなければならないのか。本来は、未来に向かい計画・行動・評価・改善とマネージメントしていかなければならない。しかし実情は、目の前にきたものを順番に処理をしている状態です。
- 財源の確保、運営に従事する人材の確保
- 財源確保の困難性。部活動の地域展開にかかる行政との姿勢、ビジョンの乖離。
- 本県では、一部地域のみ競技を行っているため低年齢層への拡大が頭打ちになっている。また、地元高校から大学への進学率が低く、教員を主とした指導者育成に悩まされている。
- 地域協会で柔軟に使用できるホッケー場がない。少年のチーム数が少なく（高校男子2校のみ）裾野が狭い。
- スポンサー不足、地方自治体の理解不足
- ホッケーの普及を図っているが、なかなか広がっていかない。
- 協会スタッフの不足・財源の確保・地域の少子化・指導者不足
- 少子化による影響もあると思いますが、高校生と一般（20代）の競技人口が少なく、強いては競技役員（審判員含む）の育成が難しいと考えている。
- 市民のスポーツ離れが進む中、さらに、メジャースポーツに人気をとられ競技人口が増えない。
- 行政の財政難に伴う、補助金削減や施設更新の見送りなど。少子化、運動をしない子の増加。
- 元々、少数の協会員で何とか運営していたが、近年の競技者・協会員減等の影響で協会が衰退し、解決策に苦悩しているタイミングで地震により被災したため、競技発展が更に難しくなった。今後、県の中心地で小学生を対象に普及活動を実施していくことを目標としているが、参加者はじめ、会場やスタッフ、費用の確保等に問題を抱えている。